



アイヌ語で「広場」の意味
文 北原 モコットウパン 絵 小笠原 小夜



- 道内には、アイヌ語が基になった地名がたくさんあるよ。いくつ読めるかな。
- ①千歳市の支笏湖
 - ②釧路管内鶴居村茂雪裡
 - ③空知管内月形町字札比内

＝答えは紙面の下に

読んでみよう

アイヌ語には日本語にない音があります。これをカタカナで書くときには字を小さくして表します。このページのタイトル「ミンタラ」の「ラ」もそうですね。小文字は全部で14種あります。毎回、そのいくつかの読み方をしょうかいします。

今回は「フ」です。たとえば「ルフ（氷）」、「ムフクナ（口琴）」というときの発音です。口をウの形に開けたまま、軽く息をはく音です。

「フ」の発音を動画でも学べます。出演は関根摩耶さん。指導は千葉大学の中川裕先生です。スマートフォンを持っている人は、QRコードから読みこんでください。



クイズの答え

- ※写真裏面を参考にしてください。
- ① 大空(オホソラ)・千歳(チゼイ)の古(コ)い(イ)呼吸(キコ)を(ヲ)知(チ)る(ル)。
 - ② 小(コ)川(カハ)・東(トウ)・子(コ)・鳥(トリ)の(ノ)真(マ)が(ア)あ(ア)つ(ツ)た(ト)。
 - ③ 由(ユ)来(ライ)す(ス)る(ル)川(カハ)の(ノ)本(ホン)流(リウ)に(ニ)対(タイ)し(シ)流(リウ)に(ニ)は(ハ)モ(モ)が(ガ)フ(フ)。
 - ④ さ(サ)ひ(ヒ)な(ナ)い(イ)・水(ミヅ)が(ガ)少(コ)な(ナ)い(イ)。
 - ⑤ い(イ)ま(マ)の(ノ)時(トキ)期(キ)前(ゼン)に(ニ)な(ナ)る(ル)砂(サ)利(リ)が(ガ)吸(ス)け(ケ)て(テ)ま(マ)れ(レ)る(ル)川(カハ)。
 - ⑥ 山(ヤマ)田(タ)秀(ヒデ)の(ノ)研(ケン)究(クウ)「アイヌ語(アイヌゴ)地名(トコロナマ)の(ノ)研(ケン)究(クウ)」。
 - ⑦ 三(サン)笠(カサ)田(タ)山(ヤマ)の(ノ)地(チ)名(ナ)「アイヌ語(アイヌゴ)地名(トコロナマ)の(ノ)研(ケン)究(クウ)」。

ミンタラのこれまでの紙面は、どうしん電子版「親子ページ まなぶん」で読むことができます。今の「先人たちの物語」だけでなく、アイヌ文化をめぐる季節ごとの話題を解説する記事もありますよ。「まなぶん」でけんさくすると、このページにたどりつきます。ぜひ読んでみてください。

先人たちの物語 シンリッオロッパ

監修 佐々木 利和

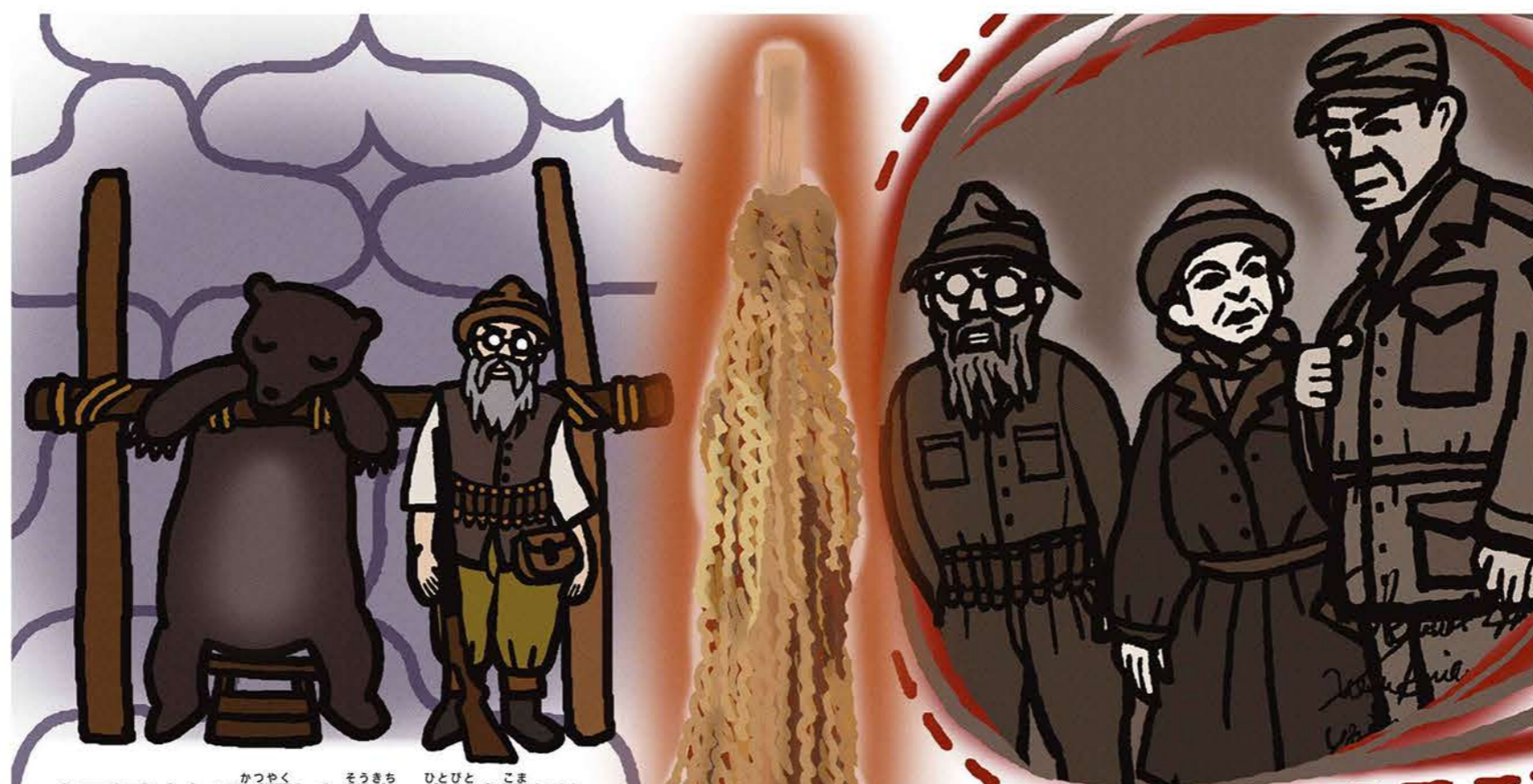
クマうち名人 様似のリーダー

ひげが美しく、くまに似た男性のことを「美髯公」と言います。岡本総吉も、美髯公という言葉がふさわしい男性の一人。威厳がたたやう風ぼうですが、子供たちがひげにじやれても構わないでよく子供好きのおだやかな人でした。松浦武四郎は1866年(安政3年)に様似のリーダーとして「シユッケアン」の名を記しています。シユッケアンは総吉の先祖にあたります。その後も岡本家の子孫や縁者がリーダーをつとめ、総吉もこれをつぎました。総吉はこの様似でクマうちをして、妻の畑作りも手伝いつつ、13人の子を育てました。

クマうちとしての総吉の活躍は、新聞でもしよかいされました。1930年(昭和5年)8月20日の「室蘭毎日新聞」には、農家をおそつう四十五、六かん(約170)のクマを総吉が仕留め、安心した人々がごどりして喜んで、とあります。また、墓をあらして人々を困らせたクマを仕留めたこともありました。1951年10月には、連合国軍総司令部(GHQ)の最高司令官だったマシュー・リッピンウェイが様似を訪れ、しゆりようをしました。このときは総吉が山を案内し、自分がつたクマの毛皮をプレゼントして大変喜ばれました。総吉は、妻のユミとともに、様似のアイヌ文化の貴重な記録を残しています。北海道博物館には、総吉が作ったイナウ(おいのり)のときカマイにお供えするもの(カマイ)が残っています。1957年には、北海道大学の知里真志保と北海道放送(HBC)が協力して、虻田や白老、平取、静内などでアイヌ語の物語や歌の録音をしました。このとき総吉も協力し、カマイ(ヒミ)のおいのりの言葉を残しています。

総吉とユミの残したものは、子供たちに受けつがれ、今日でも様似のアイヌ文化を守り、広める努力が続けられています。

(敬称略)



クマうちとして活躍した総吉。人々を困らせるクマを退治して感謝されることも多かった

GHQの最高司令官リッジウェイが様似を訪れたとき、総吉が案内した

総吉が作ったイナウ



妻のユミと、さまざまな文化を残した。様似風のオオウバユリ団子を作るユミ

HBCの録音に協力。様似のアイヌ語の貴重な記録が残った

岡本 総吉 (1888～1960年)



日本には、東北・関東・関西・四国や九州など、地域ごとにそれぞれの土地の言葉と文化があります。アイヌ語やアイヌ文化にも、やはり樺太(サハリン)・千島(クリール)・北海道などその土地ならではのものがあります。日高管内様似町や浦河町は、西と東の文化の境目にあたる地域で、例えば様似のイナウには、西の地域とは形や種類にちがいがあります。様似・浦河のアイヌ語も面白い特徴を持っていて、道北や道東、道南のアイヌ語と少しずつ似ています。様似の人々の先祖は釧路や十勝から移り住んだと言われ、日高の他の地域とも親戚の関係で

受けついだ習慣 大切に

すが、それぞれの土地で生まれて受けつがれてきた言葉や習慣を大切にしたいと考える人が多くいます。様似の面白い伝説から、山の話の一つしょうかいしましょう。アポイ岳の元の名前はマツネシリ(女山)。となりの山はピンネシリ(男山)といい、昔その頂上に神のごてんがありました。それは空から太いつなでつるされた、空にういたごてんでした。あるときごてんに集まった神々のいさかいが元で、そのごてんは山の上に落ちてしまいました。天に帰れなくなった神は、様似の人々と交わり、先祖に加わった、といわれています。